

「F A K J 重点施策2021-2023」の2023年度「具体的な取組」の振り返りのまとめ及び理事意見

施策No.	施策の柱 (テーマ)	重点施策	2021年度	2022年度以降の取組の方向性	2023年度	2023年度	理事意見
			具体的な取組		具体的な取組	振り返り（成果と課題）	
1	普及促進活動 の充実	メンバーシップ登録の推進	J F A登録制度改革及びメンバー シップ登録を促す広報啓発事業に取り 組む。		J F A登録制度改革及びメンバーシップ登 録を促す広報啓発事業に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・部会長会議等を通して広報・啓発はしているが、システム自体が不完全で徹底しにくい。 ・HPリニューアルによりデザインも一新し、視認性、操作性がアップ、広報啓発事業をサポートすることができた。 ・本年度、未加入団体への啓蒙活動を行った結果、横浜市内の2チーム（しらとり台FC、横浜東SC）が新規加入した。ただし、大会規模を維持して行く上においても、登録団体の数を更に増やす必要があると考えている。（幼児） ・JFA/バスポートとJFAキックオフの連携に問題あり、今後の動向を注視する。（市町村） 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの影響が残り、部活動離れや選手の集まり方の2極化が進んでいる。全体をみると1,2種はチームに偏りはあるがリーグ戦等整備されてきている。課題は、キッズ 幼児への巡回指導を増やすことと少人数制導入のための更なるスモールゴールの普及手配と指導者の配置、そして4種での更なるリーグ戦整備で拮抗したゲームを増やして誰もが自分のレベルに合わせてサッカーを楽しめる環境を増やしたい。 ・各部会、種別等において、サッカーが楽しめる環境づくりに取り組んでいることがわかる。ただ、やはりそれぞれに課題を抱えていることから、課題解決に向けて継続することや、協働も必要かもしれません。特に、認可保育園などの行政に関することについては、県協会がサポートしてあげると間口が開く可能性があると思いました。
			JFA登録制度改革に合わせ、新規登 録者を増やす。		JFA登録制度改革に合わせ、新規登録者を 増やす。	<ul style="list-style-type: none"> ・登録人数は男子で約400名の減となった（昨年度は約1,000名減）。昨年の県高体連調査研究の結果からコロナ禍の影響も残っている可能性がある一方で、部活動離れ、二極化による公立校の部員数減が見て取れる。広報活動等での工夫、3種との連携を組織的に行う必要もありそうだ。 ・2023年度から県少年少女部会の大会参加条件として、U-10の大会参加から選手登録を義務付けた事により、新規登録者が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サッカーファミリーを拡大するのであれば、インクルーシブで巻き込んでいく人たちを障がい者の他に、高齢者、外国人（技能実習生など）などに広げてもいいのではないだろうか。 ・各部会の事業運営を担っている方々は、各自の仕事をもっているうえでの活動というボランティア精神によって成立しているということを前提にかんがえれば、重点施策の達成に向けての活動は困難なものと思像される。
		サッカーファミリーの拡大とサッ カーの充実に向けた事業の拡大	タウンクラブ選手の普及充実と広報活 動を充実させる。		タウンクラブ選手の普及充実と広報活動を 充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・8/14にU18クラブユース合同セレクションをかかもPで開催し、約100名の参加者あり。 ・今年度もU16選抜研修会においてクラブ選抜の出場を認めている。U17選抜にもタウンクラブの選手を選出しており、あらたに神奈川チャレンジカップをクラブ部会と共催した中で運営面でもクラブ部会との協調を図ることができた。 ・クラブチームの選手確保・普及は各クラブの特徴的部分のため一律で指針示すことができない。（社会人） 	<ul style="list-style-type: none"> ・競技大会が中心の事業なのでサッカーの楽しさを体験する事業は、3種以上は難しいかもしれない。キッズ対象。女性への啓発が中心になると思われる。
			リーグ戦を整備し、登録チームを増 やす。		リーグ戦を整備し、登録チームを増やす。 また、新規チームへのヒアリングを実施 し、リーグへの定着を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・県リーグを2種は6部制、3種は4部制、4種を3部制に整えて、整備を継続中。3種の5部制への移行はさまざまな課題をクリアするために検討を継続している。 ・新規加盟希望クラブ6クラブのヒアリングと研修を終え、新たに加盟予定 ・2種大会部会と協働し、魅力あるリーグ戦の創出のためU18リーグ再編による6部制をスタートさせた。高体連大会における出場チーム数は減っているものの、合同チームの出場を認めていることにより登録チーム数は維持できている。 ・新規加盟希望チームが多くなっているが、試合を組んでも人数が集まらずに試合ができないというチームも散見される。ヒアリング実施しているが ・神奈川県U-15女子フットサルリーグを新規で開催7チーム参加した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スモールサイドゲームなどのフェスティバルは有効と思うが、予算と人手など障壁を取り除く必要があるだろう。 ・登録者数を増やすことは至難の業か。例えばシニアリーグを60～64、65～69、70～74、75～79と細かく分けることで登録チームを増やすことができる。シニア層は同じレベルで試合をすることを望んでおり、可能性あり。
			幅広い世代にフットサルができる環 境を整える。		幅広い世代にフットサルができる環境を整 える。	<ul style="list-style-type: none"> ・2種及びシニアとの交流の架け橋となるような取組を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者資格の取得について、取得講習会時にクラブのあり方や、障害保険、ガバナンス、ウェルフェア等の講習ができないか？
			2種及びシニアとの交流の架け橋と なれるような取組を行う。		2種及びシニアとの交流の架け橋となれる ような取組を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・2種との交流はできていない。（社会人） 	<ul style="list-style-type: none"> ・インクルーシブサッカーフェスタの開催について、県の施設だけでなく、大学(教育系の学部・学科を有する)で行い、大学生にボランティアをお願いしその後につなげる方策を考えてはどうか。
			フェスティバルにて少人数制サッ カーを導入する。		幼児・キッズ年代の各種フェスティバルに て少人数制サッカーを導入する。	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度よりJFAキッズサッカーフェスティバルU-6/U-8/U-10各カテゴリーに少人数制サッカーを導入し実施している。参加したチーム代表者からは高評価を頂いた。今後はU-8/U-10については通常のコートサイズでのフレンドリーマッチの要望もあり次年度以降、検討したい。（キッズ） ・今年度も、全大会において、JFASモールサイドゲームガイドラインを参考に、スモールゴールの採用およびGKなしのレギュレーションで大会を実施および予定である。ただし、チャイルドサッカー大会においては6人制を採用も、他の大会においては8人制のため、今後は1dayの大会の中で、以下に多くのチーム・選手にサッカーを楽しんでもらうのかという課題と、スモールゴールの手配と指導者・審判員の準備や配置といった問題を解決して行く必要がある。（幼児） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ファミリー拡大ー競技者本人だけではなく、あらゆるステークホルダー（家族、ファン、ボランティア、関係者など）をどれだけ増やせるかがこれからの課題に感じます。また、少子高齢化社会が進む世の中で、シニア層の取り込みも重要な鍵になる。登録者数のみでKPIを図るのではなく、接触人数や実施回数など工数に限りはあるがそういった観点での数値化も重要。
			合同チーム出場を含めた選手出場可 能大会の拡大を図る		合同チーム出場を含めた選手出場可能大会 の拡大を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・全リーグ戦において合同チーム出場可能(3種大会) ・合同チーム編成におけるガイドラインに基づき、大会参加を認めている。今年度の選手権予選では男子で8チーム、全24チームが合同チームで参加した。(2種高校) ・2023年度の試みとして、保育園を訪問し、合同チーム出場を含めた大会参加の啓蒙を行った。ただし、認可保育園は行政の管轄のため門前払いとなってしまうため、無認可保育園を中心に訪問を重ねた。よって、啓蒙対象およびその方法が今後の課題と考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少や部活動離れの中、各部会の取り組みによって十分な成果は出ていると思う。さらに広くサッカーファミリーを増大していくためには、新たな方策が必要に感じる。
		リーグ戦の定着に向けた取組の推進	未実施の市町村協会に働きかけ、 リーグ戦の実施を促す。		未実施の市町村協会に働きかけ、リーグ戦 の実施を促すとともに、試合グラウンド確 保の協力を仰ぐ。	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村部会との調整はまだ進んでいない。（社会人） 	<ul style="list-style-type: none"> ・KGIに示した「登録者数を85,000人にする」は、ほぼ達成していることから一定の評価はできる。しかし、少子高齢化が進展する中で、「普及促進活動の充実」は、本FAの財源確保にもつながる重要な内容である。JFAも中期計画の中で、「重点3領域」について、普及活動を推進するとしていることもあるので、本FAとしても、JFAに準じて3領域を推進するの、あるいは、本FAとしては、当面は女子とジュニアを重点化して取り組むなど、本FAとしての普及促進に係る基本方針（重点施策）を示すなども必要と考える。
			全登録チーム・選手が参加できるよう にリーグ戦の参加基準と会場確保等 についてのルールを緩和する。		全登録チーム・選手が参加できるようにリー グ戦の参加基準と会場確保等についての ルールを緩和する。	<ul style="list-style-type: none"> ・運営幹事委員会を設置し、幹事を中心にグラウンドをなかなか確保できないチームを含めた全チームがリーグ戦に参加できるよう調整。（3種クラブ） ・選手の出場機会確保のため、U18リーグにて登録制度の改正（チャレンジ制度）について、高体連専門部諸会議にて意見聴取を行い大会部会と協働した。高体連大会における選手交代数の制限緩和策や延長戦時の交代人数1名追加などを検討した。 ・同一母体による複数エントリーの参加を認め、人数が少ないチーム同士での合同チームでの参加を認めている。複数エントリーについては、前年度+1までチームの参加を認め、クラブ申請を活用して3種年代の選手の出場も認めている。（2種大会） ・会場確保が難しく試合消化が進まないところがある。高額な使用料を払ってまで行いたくないというチームがある。（社会人） ・全選手が公式試合に参加するためには、参加基準等の緩和よりも選手数の偏り（特に高体連）をどの様に是正していくかの方が優先事項である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者サッカー連絡協議会の設立について、構想から実現まで一年で達成できたことは大きな成果と感じました。
			神奈川県CYリーグの充実と協賛社 の拡大に取り組む。		神奈川県CYリーグの充実と協賛社の拡大 に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・新人戦を2022年10月～2023年1月末で実施し、県クラブユースリーグ戦を1・2部制でスタートした。 	

施策No.	施策の柱 (テーマ)	重点施策	2021年度	2022年度以降の取組の方向性	2023年度	2023年度	理事意見
			具体的な取組		具体的な取組	振り返り（成果と課題）	
			各年代で年間を通してリーグ戦を開催する。		各年代で年間を通してリーグ戦を開催する。	<ul style="list-style-type: none"> 県リーグを2種は6部制、3種は4部制、4種を3部制に整えて、整備を継続中。3種の5部制への移行はさまざまな課題をクリアするために検討を継続している。 JFAリーグのないU-14年代のリーグ戦運営（CJYU-14リーグ）中学3年生12月以降のリーグ戦運営（CJYU-15リーグ） U-1リーグ、U-13リーグ、中学生リーグの整備に努めた。 取り組み継続（3種大会部会） 6部制への移行により下級生で編成されたチームの参加も可能となる環境づくりができ、来年度のチャレンジ制度の導入により、より一層の効果が期待される。（2種大会） 	
			レベルに応じた戦いのできるリーグ戦改革を推進する。		レベルに応じた戦いのできるリーグ戦改革を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 県リーグを2種は6部制、3種は4部制、4種を3部制に整えて、整備を継続中。3種の5部制への移行はさまざまな課題をクリアするために検討を継続している。 取り組み継続（3種大会部会） 2種大会部会と協働し、魅力あるリーグ戦の創出のためU18リーグ再編による6部制をスタートさせた。 2023年度より6部編成して、各リーグで拮抗したゲーム増えたと感じる。ただ、大差になってしまうゲームはあるため、各リーグのグループ数について、今後検討していく予定です。 2023年度より県TOPリーグ1部と2部を創設し、レベルの拮抗したチーム同士のリーグ戦が出来るようにした。（少年・少女） 	
		グラスルーツや障がい者サッカーの充実に向けて、関係団体等との連携や支援の充実	JIFF・Jチームと連携した障がい者サッカーイベントの主催する。		JIFF・J、WE、なでしこ、Fリーグチーム等と連携した障がい者サッカーイベントを主催する。	<ul style="list-style-type: none"> J、WE、なでしこリーグチーム等と連携したJFAインクルーシブサッカーフェスタを主催実施した。 	
			追加		障がい者サッカー団体を取りまとめる組織づくりを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 県協会、障がい者サッカー団体の関係者で構成される準備委員会を発足させ、検討をしている。 県協会内に障がい者サッカー連絡協議会を設立し、連絡協議する場とした。また、女子部会に障がい者サッカー担当を設置した。 	
			それぞれの事業に係る事の出来る学生を中心としたボランティアを育成する。		それぞれの事業に係る事の出来る学生を中心としたボランティアを育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 協会としての特段の動きはなかった。 	
			障がい者サッカー事業に積極的に参加する。		障がい者サッカー事業に積極的に参加する。	<ul style="list-style-type: none"> ほとんどできなかった。（社会人） JFAインクルーシブサッカーフェスタへの登録選手等の参加はほとんど無かった。 	
		トレセン制度を軸とした育成環境の充実	指導者養成部会と連携し、各がコリー毎にトレコチ研修会を実施し、トレコチの指導力を向上させる。		指導者養成部会と連携し、各がコリー毎にトレコチ研修会を実施し、トレコチの指導力を向上させる。	<ul style="list-style-type: none"> トレセンコーチ研修会は各地区で実施と決めていたが未実施が増えているので来年度は、年間計画に組み入れてトレセン部会本部主導で実施予定。 横浜は各区でD級講習会を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 育成環境の充実については、FAコーチをリーダーに全県を8地区割制にしてトレセン活動&指導者養成を各地区のダイレクターに指導とチューター活動を任せる。更に自地区のトレセンコーチをC級養成講習会やB級養成講習会に推薦できる制度が奏功して地区や県内の有資格指導者が順調に増加。また、有資格コーチへのリフレッシュ講習会を全県で15回実施で新規有資格指導者と合わせると年間約2400人の有資格者に働きかけたことになり、大きな成果である。ただし、保育園・幼稚園への巡回指導数が全国最下位ということについては、原因究明と根本的改善が必要である。 FAコーチを中心に、数多くの取組みを実施してくれていると思います。暑熱対策等により、新しいサッカーカレンダーが検討されています。施設不足などもあるかもしれませんが安全に試合を運営することが必要です。 育成環境の充実に関する方向性は間違っていないと思う。 活動場所の確保もさるいことながら、優れた指導者が必須と思うので、有資格者の増加に今後も務める必要がある。 FAコーチの意見をとりいれて積極的に取り組む分野と思われる。 ウェルフェアオフィサーの育成については、クラブに関わるしっかりした考えを持つ人材の育成を考えたい。 窓口対応についてJFAの仕組みが多少変わったことで多少は整理できるか。 育成環境の充実には「指導者の質の向上」が必須になる。まだまだ課題はあるが、方向性に間違いはないと思う。 「育成環境の充実」については、23年度までのKGIには具体的な数字等は示されていないが、本県のトレセン活動は、育成年代の選手たちに良質な指導を行う観点から非常に優れた取組みであると思う。現在も、日本代表等に本県出身者が多数いることを踏まえても、今後も充実した取組みにしてほしい。それから、育成環境の充実の中で、「安心・安全な活動環境の保障」について、特に暑熱対策として「熱中症ガイドライン」の周知・徹底にあるように、管理運営面の対策が中心となっているが、熱中症に罹患するリスクは、単に管理運営面だけを周知・徹底すれば防げるものではなく、個々の選手の体調によることが大きい。そうした観点から、日本スポーツ協会の「スポーツ活動中の熱中症予防5か条」にあるように、選手自身が自らの体調管理を意識することも指導者を養成する中で啓発していったほしい。体調が優れないのに、自ら練習や試合出場を辞退することをせず、無理して練習や試合に臨んで、熱中症になったり、けがをしたり、事故に合ったりするようなことがないよう、自らの安全は自らが責任をもって、主体的に思考し判断できる自律し
			キッズエリートプログラムを充実させる。		キッズエリートプログラムを充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> 各カテゴリー別に、各4回を目標に実施中。毎回個人単位での参加が有りチーム単位の参加も含めチームの練習では得られないスキルアップや選手間のコミュニケーションが有る。課題として実施会場に偏りがある為、県全体的に開催出来る様にしたい。 4種登録各チームでC級取得への啓発活動実施中 	
		3種及び4種を中心とした登録チームへの有資格者配置の推進	市町村協会の協力を得て、FAコーチと連携し、指導者資格取得講習会を各地区で開催出来るようにする。		市町村協会の協力を得て、FAコーチと連携し、指導者資格取得講習会を各地区で開催出来るようにする。	<ul style="list-style-type: none"> D級は、U12の各FA予選の義務化で今まで実施していなかった海老名市、鎌倉市でも実施でき、すべての市町村協会を網羅することができた。また横浜市や川崎市では区単位での実施が拡がりを見せている。（横浜：9/18、川崎：3/7） B級ライセンス取得講習会平日コースへのクラブ推薦者選出 	
			チーム登録や大会参加条件として有資格指導者を加える。（4種は現在D級だが、C級を増やす）		チーム登録や大会参加条件として有資格指導者を加える。（4種は現在D級だが、C級を増やす）	<ul style="list-style-type: none"> まずはU-12がD級に対応中。ただし、CD級チューターを11人増やしている。2025年よりU-12は全国大会はC級1名が義務化となるが県内大会への導入は未検討である。 U12の全ての大会参加条件として、ベンチ入る指導者のうち1名のD級以上の資格保有を義務付けた事により有資格指導者が増えた。 	
			指導者養成において平日コースや夜間コース、集中コース等様々なコースを設置するとともに各種別への広報を的確に実施し、有資格指導者を増やす。		指導者養成において平日コースや夜間コース、集中コース等様々なコースを設置するとともに各種別への広報を的確に実施し、有資格指導者を増やす。	<ul style="list-style-type: none"> B級は、各地区トレセンカテゴリー別推薦枠や部会推薦枠で参加できる制度が奏功して順調に増加中。コースの種類も複数（平日、土日、宿泊集中）ある。C級は平日夜間、夏期休業中集中コース等工夫しているが、暑熱対策などへの対応も必要となっている。コースによっては定員が埋まらないことも出てきているので、いかに参加を促すかが課題となっている。対策の一つとしてSNSを用いた広報も開始したが、成果を挙げるまでには至っていない。 	
		ウェルフェアオフィサーの活用とフェアプレーの推進	ウェルフェアオフィサー講習会の開催と設置大会を増設し、ウェルフェアオフィサーを配置する。		ウェルフェアオフィサー講習会の開催と設置大会を増設し、ウェルフェアオフィサーを配置する。	<ul style="list-style-type: none"> クラブウェルフェアフェアオフィサー講習会は、まずは4種向けに実施予定。 高校選手権予選準決勝、決勝および本大会全試合にて設置している。また、今年度の102回大会より会場オーラビジョンとアナウンスによるウェルフェアオフィサーの氏名紹介とその目的（暴力根絶）について周知した。 4種主要大会の準決勝以上にウェルフェアオフィサーを配置して実施した。 4種の大会においてはマッチウェルフェアオフィサーを各大会の準決勝以上に配置することができた。 	
			指導者講習会での講習を義務付ける。		指導者講習会での講習を義務付ける。	<ul style="list-style-type: none"> 指導者講習会での実施に向けて、JFAセーフガーディングワークショップのチューター向け研修会は昨年度実施済で準備は順調である。今年度の実施は1回（大和市）だけであったが今後各市町村協会との連携を図り、実施回数を増やす方向である。 義務化には至っていない。（2種高校） 講習会の内容に一部が組み込まれるようになった。 	
			各種大会でフェアプレー賞を授与するとともに、フェアプレーの啓発を働きかける。		各種大会でフェアプレー賞を授与するとともに、フェアプレーの啓発を働きかける。	<ul style="list-style-type: none"> U18リーグ戦の年間順位決定方法にフェアプレーポイントも導入している。 クラブユース選手権大会においてフェアプレーコンテストを開催 高校選手権予選準々決勝以降でフェアプレーコンテストを行い、フェアプレー賞を来年度の総体予選抽選会にて授与している。 各種別の主要大会にはフェアプレー賞を設けて啓発にも寄与できた。 高校選手権本大会において準決勝にてエスコートキッズを少年少女部会の協力のもとで実施できた。ユース審判員の登用に向けては、指導者、選手、保護者、OBのリスベクト精神に基づいた理解・協力の推進が必須である。 	
			ゲームだけではなく地域を巻き込んでフェアな精神を啓発する。		ゲームだけではなく地域を巻き込んでフェアな精神を啓発する。		

施策No.	施策の柱 (テーマ)	重点施策	2021年度	2022年度以降の取組の方向性	2023年度	2023年度	理事意見
			具体的な取組		具体的な取組	振り返り（成果と課題）	
2	育成環境の 充実		部会・クラブからの依頼を受けてフェアプレーに関連する研修会を行う。	<ul style="list-style-type: none"> FAコーチを補佐するコーチの育成を行い、今後カテゴリー毎にサポートが可能なスタッフ体制を構築すること。 フェアプレーの推進は、起きた問題への対症的法的な対応だけでなく、積極的にフェアプレーを啓発する取組みを行うこと。 保育園、幼稚園、小学校への巡回指導を推進すること。 	部会・クラブからの依頼を受けてフェアプレーに関連する研修会を行う。	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の影響が残っており研修会の依頼が無かった。 	<p>た選手を育成することも大切であると思う。是非、指導者の育成の中でも考えてほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> プログラム、講習会の開催場所が工夫されており、良いと感じました。参加者のアワセシビリティも重要と感じます。 フェアプレーに関する啓発が様々な取り組みについては、引き続き推進を期待したいです。 保育園・幼稚園への巡回指導はもっと多く回数を重ねている印象だったので意外でした。ニーズは高いと思うのでより活発な活動を期待します。
			信頼される相談窓口に向けて真摯な活動を行う。		信頼される相談窓口に向けて真摯な活動を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 相談窓口に依頼のあったものには真摯に取り組み問題解決に努めた。 	
		安心・安全な活動環境の保障	コロナ感染対策・熱中症対策等を確実に行う。		コロナ感染対策・熱中症対策等を確実に行う。	<ul style="list-style-type: none"> JFAおよび県高体連のガイドラインの緩和・撤廃に従い、大会運営を徐々に緩和できた。熱中症対策については来年度の選手権1次予選の日程について改善を図ると同時に、ワーキンググループを編成し、令和7（2025）年度に向けた大会カレンダーの検討に入った。 コロナ感染対策はガイドラインを遵守し大会を実施した。また、熱中症対策は極力7月・8月の大会実施を回避し、試合実施時間等も調整した。 8月のリーグ戦を延期した。1部リーグを延期したことで3部リーグまで延期。試合終了日程を変更した。 カレンダーの見直し、WBGT計の配付、一次救命資格講習会の受講促進を部会長会議を通じて啓発した。 	
			指導者講習会での講習を義務付ける。		指導者講習会での講習を義務付ける。	<ul style="list-style-type: none"> 義務化には至っていない。（2種高校） 	
		地域クラブ等の健全運営と活動の充実に向けた支援体制の充実	市町村協会に属さないチームの組織化を推進する。運営についても指導者講習会等で働きかける。		市町村協会に属さないチームの組織化のため、具体的な方策を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> 4種の各地域リーグ参加資格や地域協会への登録条件を調査中。そして改善していく予定である。 クラウド提供等で市町村協会の協力を得ている為、市町村協会に属さないチームの組織化はなかなか難しい。（4種） 	
			県リーグ戦の普及や充実のため、各種別大会の期分けを調整してリーグ戦や公式戦を増やす。		県リーグ戦の普及や充実のため、各種別大会の期分けを調整してリーグ戦や公式戦を増やす。	<ul style="list-style-type: none"> 7. 8月の暑熱対策を含めて再調整が必要である。 2種大会部会にて高校部会およびクラブ部会と協調した2種大会の日程づくりを進めている。 リーグ戦を充実させる為、4月から10月まではなるべく大会を行わないように配慮している。 U-12リーグは、サッカーの試合と重ならないように平日夕方以降に開催、U-15リーグはクラブユースにも登録しているスタッフがスケジュール調整を行いフットサルとサッカーの両立できるようにしている。 公式戦を増やすのは環境的に難しい。また、秋春リーグへ変更の可能性があり、影響を受ける可能性があるため現時点で大会を増やすことは難しい。 暑熱期間(7～8月)を外すことになれば、過密スケジュールが必至になる。 	
			指導者講習会での働きかけの機会を増やす。		指導者講習会での働きかけの機会を増やす。	<ul style="list-style-type: none"> 高体連専門委員会に向けた講習会を例年通り9月、12月の2回実施した。（高校技術） 加盟クラブ対象に年間全8回の指導者講習会を開催 	
			U18リーグ改革を推進する。		U18リーグ改革を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 6部制・複数エントリー・自動入れ替えやチャレンジ選手制度を導入・整備して継続中。 2種大会部会の会議メンバーへ高校部会より選出し、推進に努めている。6部制への移行やチャレンジ制度の導入、超短期的な視点でよりよいリーグの在り方について検討を行った。 2023年より6部制とし、2024年度からは、チャレンジ選手制度を導入していく。今後は、各リーグのグループ数や、昇降格の数を検討していく、リーグ戦をより良くしていく。 	
			FAKJリフレッシュ研修会を多種別と協働して開催する。		FAKJリフレッシュ研修会を多種別と協働して開催する。	<ul style="list-style-type: none"> 2023年度より毎月一回カモメPにおいて定期リフレッシュ研修会（8回）を実施して成果をあげている。さらにJリーグ観戦型（2回）や講演型など年間15回のリフレッシュ研修会を実施、またCJY連盟、高体連、4種少年少女部会と連携して計4回のリフレッシュ研修会を実施し、成果を挙げた。 	
		地域（市町村）協会との情報共有と連携・協力体制の充実による地域活動の充実	ゴール寄贈事業や設備整備事業等の機会を活用し、市町村連絡協議会所属協会を増やす。		ゴール寄贈事業や設備整備事業等の機会を活用し、市町村連絡協議会所属協会を増やす。	<ul style="list-style-type: none"> 各市町村から必要に応じて申請中、市町村連絡協議会事務局から発信するも増加せず現状維持の状況 市町村連絡協議会、市町村部会、地域FA会員の位置づけをはっきりさせ、地域FA会員の市町村協会を増やしていきたい。 	
			郡市協会との連携を深め、フェアプレーの推進を図る。		郡市協会との連携を深め、フェアプレーの推進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 郡市協会と連携して、全チームへクラブウェルフェアオフィサーの設置の方向性を検討している。 	
		学校体育団体との連携による学校部活動を活性化するための支援策の充実	指導スタッフの派遣方法等に係る課題を検討し、外部指導者派遣事業の活性化に取組む。		指導スタッフの派遣方法等に係る課題を検討し、外部指導者派遣事業の活性化に取組む。	<ul style="list-style-type: none"> 最終的には各地区トレセン責任者がチューター兼外部指導者の連絡調整もできるように組織化したい。 FAコーチの巡回指導制度の存在を加盟校に周知（2種高校） 中学校部活地域移行プロジェクト会議で指導者の資質・条件など議論中（市町村） 	
			教員が受講しやすい日程での指導者養成取得講習会を開催する。		教員が受講しやすい日程での指導者養成取得講習会を開催する。	<ul style="list-style-type: none"> 夏休み集中型や平日コース・土日コースを準備して開催している。 FAコーチからの働きかけで大会日程や長期休暇などを考慮した講習会実施となっており、教員が参加しやすい環境となっている。 	
			高体連技術部会との協働で選抜活動へのサポートを充実させる。		2種クラブ部会と高体連技術部会との協働で選抜活動へのサポートを充実させる。	<ul style="list-style-type: none"> U17選抜まで延長して夏休み期間内に他県の選抜メンバーと研修試合まで実施している。U17選抜は2月に日本高校選抜との試合を2年連続で実施。新たにU16選抜で2月に東京都と交流試合を実施する。 クラブ部会との共催で神奈川チャレンジカップの2回目の開催を行った。クラブ部会との協働で大会運営を行っている。U16ユース選抜研修会へのクラブ選抜の参加を経て、U17選抜の活動へと繋げていくことができている。 	
			一般顧問から専門委員や地域トレセンスタッフへの積極的な登用を図る。		一般顧問から専門委員や地域トレセンスタッフへの積極的な登用を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 継続実施している。 若い教員が増え、専門委員の登用やトレセン活動でのスタッフ登用については行っている一方で、校務との両立の観点から、安易な登用とならぬよう専門委員の登用手続きや登用条件について整理を行った。（2種高校） 	
			小学校への巡回指導を行う。		保育園・幼稚園・小学校への巡回指導を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 保育園・幼稚園・小学校16回実施中。昨年度より6回多くなる予定。今後は各ニーズに合わせスタッフ調整をし1回でも多く実施したい。 巡回指導数が全国最低の報告数になっていることについて根本的な改善が必要に思う。J、なでしこリーグ等の巡回指導をカウントできるようにしたい。 	
			追加		小学校体育サポート事業を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> 今年も県教育委員会を通じて県内の小・中学校に案内を送った。 	
		指導者の量的な拡充と質的な向上	県内各地区での指導者養成取得講習会を開催する。		県内各地区での指導者養成取得講習会を開催する。	<ul style="list-style-type: none"> C級は県内8地区各1コース+αで14コースになり年間約300人増やしている。D級は11都市と横浜・川崎10区などで実施できて同様に年間約1000人増やした。 横浜は各区で取組中 	<ul style="list-style-type: none"> FAコーチが、B級コーチ養成(県内3コース)を中心に活動し年間77名。CD級については、県内を8地区割にして地区ダイレクター制度を

施策No.	施策の柱 (テーマ)	重点施策	2021年度	2022年度以降の取組の方向性	2023年度	2023年度	理事意見	
			具体的な取組		具体的な取組	振り返り（成果と課題）		
3	指導者の育成	神奈川の特徴を生かした指導者研修会の充実	平日や夏休み期間等の新規コース開催で有資格者を増員する。	・チューターを効率よく配置、活用して、キメの細かい指導者講習会を継続して実施すること。 ・講習会等のアセスメントを踏まえて、より良い研修会や講習会を実施し、より良い指導者養成に繋げること。	平日や夏休み期間等の新規コース開催で有資格者を増員する。	・今年も実施済み、ただし、中学校先生向けのD級取得講習会は集まらなかった。	導入定着させている。年間各地区1回+αで合計14コースでC級を約300名。D級については11都市と川崎市・横浜市で10区などで実施し約1000名養成と全県で指導者養成システムが完成しつつある。 ・FAコーチを中心に、数多くの取組みを実施してくれていると思います。 ・「指導者の育成」の中に、資格を取得したコーチらをサポートする体制（例えば相談窓口など）は整備されているか？ ・よりよい指導者を目指す方々が取り組みやすい環境を整備する方向が大切と思うことから、現在の取り組みは評価できる。 ・中学校の部活外部指導者の導入に伴い、県内指導者の人材バンクの整備が必要か？ ・成果をあげているFAコーチのアシスタントを有給(時給対応)で導入したらどうか？ ・数と質の双方を高めていきたい。特に質の向上についてさらなる改善策が欲しいところである。 ・「指導者の育成」については、23年度までのKGIとした登録指導者数7,000人に対して、約7,600人（23年度末見込み）と約600名上回る成果を出していることは非常に高く評価できる。特に、「講習会等のアセスメントを踏まえて、より良い研修会や講習会を実施し、より良い指導者の養成に繋げること」は、研修会や講習会をより良いものにするというだけでなく、「指導者が一人よがりの指導しないよう、絶えず自らの指導を絶えず振り返り改善する」というサイクルを身に付ける上でも、大切な視点であるので、是非、指導者の育成の中でも、自らの指導の振り返りをすることを啓発してほしい。それにより、暴言や暴力のない指導環境にもつながると思う。	
			県内6チームあるJクラブと連携したC、D級養成講習会を開催する。		県内6チームあるJクラブと連携したC、D級養成講習会を開催する。	・CD級は、横浜FMリノスコースは実施済み。また横浜FCでは選手・スタッフ向けC級講習会を初めて実施した。C級フロンティアコースの実施を検討したが開催は来年度以降に持ち越された。		
			Jリーグ、WE、なでしこリーグ観戦型リフレッシュ講習会を企画し実戦からの学びを充実する。		Jリーグ、WE、なでしこ、Fリーグ観戦型リフレッシュ講習会を企画し実戦からの学びを充実する。	・コロナが明けて観戦型リフレッシュ研修会は再開している。（横浜FM、YSCC）ただし、J3は参加者が少ない。		
		市町村協会との連携による指導者講習会を開催する。	市町村協会との連携による指導者講習会を開催する。		・現在のところD級取得講習会が、各市・区協会単位で進んでいる。C級講習会は相模原市と連携して実施、横浜市、平塚市、茅ヶ崎市も開催を検討中。			
		コーチ・トレセン及びトレセン・メンター制度、評価制度等の導入等によるチューター・トレセンコーチの資質向上	FAコーチによる各地区トレセン巡回訪問を実施する。	継続して実施すること。 ・講習会等のアセスメントを踏まえて、より良い研修会や講習会を実施し、より良い指導者養成に繋げること。	FAコーチ・地区トレセンダイレクターによる各地区トレセン巡回訪問を実施する。	・実施している。ただし、FAコーチは年間でも1～2回しか各地区に行けないので、地区トレセンダイレクター制度を導入してその力を重視する。	現在の取り組みは評価できる。 ・中学校の部活外部指導者の導入に伴い、県内指導者の人材バンクの整備が必要か？ ・成果をあげているFAコーチのアシスタントを有給(時給対応)で導入したらどうか？ ・数と質の双方を高めていきたい。特に質の向上についてさらなる改善策が欲しいところである。 ・「指導者の育成」については、23年度までのKGIとした登録指導者数7,000人に対して、約7,600人（23年度末見込み）と約600名上回る成果を出していることは非常に高く評価できる。特に、「講習会等のアセスメントを踏まえて、より良い研修会や講習会を実施し、より良い指導者の養成に繋げること」は、研修会や講習会をより良いものにするというだけでなく、「指導者が一人よがりの指導しないよう、絶えず自らの指導を絶えず振り返り改善する」というサイクルを身に付ける上でも、大切な視点であるので、是非、指導者の育成の中でも、自らの指導の振り返りをすることを啓発してほしい。それにより、暴言や暴力のない指導環境にもつながると思う。	
			コーチトレセンを実施する。		コーチトレセンを実施する。	・コーチトレセンのような形式で、各地区のトレセン活動実施時に指導案・全員での振り返りを毎回実施している。		
		トレセンメンター制度の創設に向けた各地区インストラクター制度を開設する。	トレセンメンター制度の創設に向けた各地区チューター制度を開設する。		・それに比べて2023年度に更にCD級チューターを11人、B級チューターを2人増員している。			
		各講習会でスマホアンケートを実施し、講習会の改善・充実を図る。	各講習会でスマホアンケートを実施し、講習会の改善・充実を図る。		・毎回参加者によるアセスメントでのチューター評価を実施している。現在までにネガティブな意見は全く出ていない。			
		FAコーチを中心とした指導者育成事業の改善・充実	FAコーチによるB級コーチ養成講習会を平日コース・休日コース・短期宿泊型コース・夏休み日程コースなど多様なコースを開設する。	・講習会等のアセスメントを踏まえて、より良い研修会や講習会を実施し、より良い指導者養成に繋げること。	FAコーチによるB級コーチ養成講習会を平日コース・休日コース・短期宿泊型コース・夏休み日程コースなど多様なコースを開設する。	・実施している。現在高体連サッカー専門部の技術委員会のメンバーのB級コーチ取得率は、70%になっている。	現在の取り組みは評価できる。 ・中学校の部活外部指導者の導入に伴い、県内指導者の人材バンクの整備が必要か？ ・成果をあげているFAコーチのアシスタントを有給(時給対応)で導入したらどうか？ ・数と質の双方を高めていきたい。特に質の向上についてさらなる改善策が欲しいところである。 ・「指導者の育成」については、23年度までのKGIとした登録指導者数7,000人に対して、約7,600人（23年度末見込み）と約600名上回る成果を出していることは非常に高く評価できる。特に、「講習会等のアセスメントを踏まえて、より良い研修会や講習会を実施し、より良い指導者の養成に繋げること」は、研修会や講習会をより良いものにするというだけでなく、「指導者が一人よがりの指導しないよう、絶えず自らの指導を絶えず振り返り改善する」というサイクルを身に付ける上でも、大切な視点であるので、是非、指導者の育成の中でも、自らの指導の振り返りをすることを啓発してほしい。それにより、暴言や暴力のない指導環境にもつながると思う。	
			FAコーチを含め、組織的な指導者育成システムを構築し、全体のレベルアップを図る。		FAコーチを含め、組織的な指導者育成システムを構築し、全体のレベルアップを図る。	・C級からB級コーチにレベルアップしてその人たちがトレセンコーチになり活動するので全体の指導力は確実に向上している。		

4	審判員の育成	技術との連携・協力の推進による円滑なゲーム運営の実現	技術部(FAJ-升)が編集作成した選手育成のための分析ビデオによるレフェリング改善研修会を定期的に実施する。	・審判員の技能向上に貢献できる技術部会とのタイアップレフェリー講習会を継続することにより、タフでたくましい選手の育成を推進すること。 ・リーグ戦化の推進等による試合数の増加に対して、審判員の絶対数が不足していることから、引き続き審判員の登録者数を増やす取組みを推進すること。 ・中高生の若い審判員の育成と継続した審判活動につなげられるような仕組みづくり（例：担当対象試合を増やす。ユース審判員の更新期限を複数年にするなど）を検討すること。 ・選手やスタッフ等が、審判員や審判の判定に対してリスペクトする気持ちを指導者養成等の中でも啓発していくこと。	技術部(FAJ-升)が編集作成した選手育成のための分析ビデオによるレフェリング改善研修会を定期的に実施する。	・2023年度は、5月、8月、12月に1種、2種の試合を対象に実施したが技術・審判双方にとって好評であった。来年度は、3種の試合を対象とした研修の実施を検討している。 ・FAコーチと連携して、ビデオクリップ映像を題材に技術スタッフ(ユース年代・社会人)と意見交換等を行なう研修会を実施した(3回)。今後は3種や4種の指導者を招いた研修会の開催する。	・審判部会がFAコーチと連携してタフで逞しい選手の育成のために技術部会とタイアップしたレフェリー講習会を継続している。ビデオクリップ映像を題材にした研修会を社会人・2種担当レフェリーを中心に3回実施。次は、3,4種のレフェリーや指導者を招いた同様の研修会も開催したい。オンラインによる新規4級取得講習会合計62回で6024人+実地講習会3回で合計6155人の養成は、オンライン活用で効率が良い。また、上級を目指すレフェリーをHPで募集し、新規2級を6人と同3級を193人昇級させたのも今後の流れになると思う。 ・選手、指導者はレフェリーに対する敬意が不足する傾向があるように思う。審判の資質向上もたいせつだが、選手の意識改革も必要。 ・審判をするのが好きという人よりもやりたいなという人の方が絶対的に多いような気がする。 ・県がユース審判員から育てた椎野大地氏が、1級になりすぐにJ3担当主審に指名された。審判部の努力が実った形か。今後は、2級までの間に、指導者資格も取るような方向で進めてはどうか？ ・審判員育成→Jリーグ、なでしこリーグ等との連携が全くない。育成年代やホームゲーム前座試合などでのユース世代、または中学生世代の審判活動の場の提供など、クラブとの連携があれば人口増などに繋がる一助となりえる。 ・リーグ戦の普及によって試合数は増加の一途だが、審判数・グラウンド数が足りない状況が発生している。チーム帯同をはじめとする方策を進めていく必要がある。 ・「審判員の育成」については、23年度までのKGIとした登録審判員数26,000人に対して、約23,500人。約2,500人程少なかった。しかしながら、審判員の拡充並びに上級審判員の養成にも取り組まれているので、引き続き審判員の育成を推進し、ルールに則ったフェアなゲームが展開されるよう尽力願いたい。	
			技術スタッフ・チーム関係者を招いた審判研修会を定期的に開催する。(年間4回程度)		技術スタッフ・チーム関係者を招いた審判研修会を定期的に開催する。(年間4回程度)	・2023年度は3回実施。 ・FAコーチと連携して、ビデオクリップ映像を題材に技術スタッフ(ユース年代・社会人)と意見交換等を行なう研修会を実施した(3回)。今後は3種や4種の指導者を招いた研修会の開催する。		
		審判員の重的な拡充と質的な向上	4級審判員の技術向上のための講習会を拡充する。		4級審判員の技術向上のための講習会を拡充する。	・競技規則の改定に伴い、加盟校顧問対象に新人戦抽選会時に審判委員会より共通理解を図った。U16選抜研修会等でユース審判の積極的な活用を行った(2種高校)。 ・4級審判員対象の「育成トレセン・実技及び座学」・「Q&Aトレセン・座学」・「中央トレセン・実技及び座学」を実施して技術向上を図った。		
			上位審判資格取得へのアナウンスを積極的に行い、上級審判員を増やす。		上位審判資格取得へのアナウンスを積極的に行い、上級審判員を増やす。	・高校専門部審判委員会より、35歳以下の専門委員の原則3級取得を目標とし取り組んでいくことが示された。 ・種別市町村部会と協力して上級を目指す審判員の発掘を行なうと共にホームページに募集案内を掲載してアナウンスを行なった。新2級に6名、新3級に193名(県内大学生対象を含む)が昇級した。		
			中学生審判員の資格取得と審判機会を創出する。		4級・中・高校生審判員の資格取得と審判機会を創出する。シニアのリーグ戦等を活用する。	・U-15年代限定4級審判資格講習会を加盟クラブ向けに開催(審判部会と協力)。 ・ユース審判の全国高校選抜の活動への帯同公募について本県から推薦者を出すなど、機会創出に努力した。U18リーグ6部化に伴い、ユース審判員の研修を高体連審判委員会が中心となって行った。 ・各種別の大会やユースフェスティバルを活用してユース年代の審判育成を行なった。		
			オンラインによる審判資格取得講習会を開催する。		オンラインによる審判資格取得講習会を開催する。	・年数回にわたり高校生対象のオンラインによる講習会を実施した。今年度、受講態度に課題が挙げられたことを受けて、顧問への指導徹底の周知を行っていく。 ・オンラインによる4級審判資格取得講習会を延べ62回実施し、6,024名が資格取得した。また、実地講習会を3回実施。新規取得者総数は6,155名。		
		神奈川の特徴を生かした審判研修会の充実	上級審判資格取得を目的としたトレセン事業を開催する。		上級審判資格取得を目的としたトレセン事業を開催する。	・年間を通して、3級審判員の資格取得を目的とした「4級中央トレセン」、2級審判員の資格取得を目的とした「3級トレセン」を実施した。		
			審判インストラクターの資質向上を図るため、インストラクタートレセンを開催する		審判インストラクターの資質向上を図るため、インストラクタートレセンを開催する。	・年間を通して、審判インストラクタートレセンを実施して資質向上を図った。2級審判インストラクターに4名が昇級、3級審判インストラクターを8名が取得した。		
			3県交流(静岡・山梨・神奈川)プログラムを実施する。		3県交流(静岡・山梨・神奈川)プログラムを実施する。	・コロナウイルスの影響で中断していた3県交流事業を再開させることができた。		
			ユース審判員を育成する。		2種・3種部会と連携し、ユース審判員を育成する。また、Jリーグ等の前座試合でユース審判員を登用していく。	・U16選抜研修会等でユース審判の積極的な活用を行った。ユース審判の全国高校選抜の活動への帯同公募について本県から推薦者を出すなど、機会創出に努力した。U18リーグ6部化に伴い、ユース審判員の研修を審判委員会が中心となって行った。 ・高体連技術部会の協力でU-16トレセンリーグの審判を担当させていただき、技術向上を図った。また、Jクラブの前座試合を担当する事ができた。		
					オリンピック事前キャンプ・Jクラブ・なでしこクラブのトレーニングマッチを利用したレフェリートレセンを実施する。	J・WE・なでしこ・Fクラブのトレーニングマッチを利用したレフェリートレセンを実施する。		・Jクラブのトレーニングマッチを利用したトレセンを実施することができ、上級審判員の技術向上の一助となった。
					日本協会・関東協会と審判員の情報共有を図り、連携した指導を展開する。	日本協会・関東協会と審判員の情報共有を図り、連携した指導を展開する。		・新たに1級審判員・国際審判員を排出することはできなかったが、担当カテゴリーがアップした審判員が多数いた。さらに日本協会・関東協会と連携した指導を行なっていく。

施策No.	施策の柱 (テーマ)	重点施策	2021年度	2022年度以降の取組の方向性	2023年度	2023年度	理事意見
			具体的な取組		具体的な取組	振り返り（成果と課題）	
5	国スポ代表 チームの強化	神奈川の特徴を生かした強化指針によるチーム強化	世界基準を意識し、代表選手を目指した選手の育成とチームの強化を推進し、将来サッカー界に貢献できる人材育成を推進する。	・強化指導指針に沿って、全カテゴリーで優勝を目指せるように、各クラブとの連携を強化し、「県」を代表する選手を召集し、参加した選手が成長したと感じられるようなチームと選手の強化を推進すること。	世界基準を意識し、代表選手を目指した選手の育成とチームの強化を推進し、将来サッカー界に貢献できる人材育成を推進する。	・少年男子は、世界基準を意識している。2023年のU17WCの日本代表のスタメンには本県の国スポ少年男子メンバーが5人出場していた。	<ul style="list-style-type: none"> ・この種別もスタッフや選手の結果には、協力体制が完成しつつある。少年男子は、ある程度結果は出している。しかし、成年男子や女子は各所属チームが人数が少なく何人も選手を送り出すチーム体力がない状況なので厳しい。練習の質と量でカバーして結果を出したい。 ・選ばれた選手達が、成長や手応えを感じ、また参加したいと思うような、憧れの選抜チームになるとよいと感じます。 ・国民スポーツ大会の実施意義が話題になるが、少年は非常に意義深いと感じる。今後も力を注ぐ必要があることから、選手の所属チームとの連携は欠かせない。 ・強化システムは整っているように思うが、コンスタントに結果が出るまでに至っていないように感じる。 ・「国スポ代表チームの強化」については、23年度までのKGIとした少年男子・少年女子の優勝、成年男子・女子のベスト4以上については、少年男子が、22年度栃木国体で優勝した。他の種別については、KGIを達成できなかった。
		代表チームへの支援体制の充実	かもめパークをはじめとする施設の優先的利用やオフィシャルパートナーによるエキップメントサポートを充実させる。		かもめパークをはじめとする施設の優先的利用やオフィシャルパートナーによるエキップメントサポートを充実させる。	・優先利用には感謝している。ただし、1面しかないので3種別の国スポチームの活動で曜日が重なるときは、18-20、20-22時で使用するので成年男子が大変だった。	
		所属チームとの連携の強化	J・WEはもとより、1種・2種・3種・女子所属チームとの緻密な連携と情報共有を図れる協力体制の構築する。		J・WE・なでしこはもとより、1種・2種・3種・女子選手の所属チームとの緻密な連携と情報共有を図れる協力体制を構築する。	男子は、どの種別も協力的である。女子も協力体制が出来つつある。ただし、成年男子・女子では各チームの人数が少なく何人も出せない状況である。	
		国スポチームの試合結果等の積極的な広報による関心度を高める取組の充実	HPへのメンバー・試合結果掲載、日本代表選手の県選抜履歴等の掲載や選手インタビュー等の掲載を速やかに行い、国体チームのステイタスを向上させる。		HPへのメンバー・試合結果掲載、日本代表選手の県選抜履歴等の掲載や選手インタビュー等の掲載を速やかに行い、国体チームのステイタスを向上させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・試合のハイライトや結果等は、HP部会のご協力により掲載がスタートしている。 ・HPリニューアル後、徐々に試合結果等の速やかなアップデートができるようになった。 今後も担当部会との連携を強化してより良いHPを目指したい。	
6	女子サッカーの普及・強化	女子サッカーの普及活動の推進	技術部会での情報共有と男子指導者による支援体制を構築する。	<ul style="list-style-type: none"> ・女子登録者数を拡充するため、4種年代を含めた総合的な推進策を策定するなど、女子サッカー全体を振興する取組みを推進すること。 ・女性の指導者、審判員の育成及び拡充と継続した資質向上の取組みを推進すること。 	技術部会での情報共有と男子指導者による支援体制を構築する。	・現在、FAコーチが必ず女子部会の会議に参加している。男子のB級コーチ取得者で定時制高校に転動になった先生を女子のトレセンコーチに参入してもらった。	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、FAコーチが必ず女子部会に参加して先ずは情報収集している。そのFAコーチの要請で男子のB級コーチ取得者を定時制高校への転動を機に女子のトレセンコーチとして参入してもらい、活躍中である。また、2023年度より女子の新規チューターを3名増員し、2024年1月21-22日で女性限定のD級コーチ養成講習会を16名で開催実施は、成果である。 ・FAコーチが女子もしっかりと見てくれており、女性指導者の育成や、普及が進んでいると感じる。女性がサッカーの楽しさを知って選手になれば、登録人数はおのずと増えるので、ファーストタッチ以降の受け皿を良い環境で整えたい。また、女性に限らず「指導者」の雇用環境に課題が多いと感じるので、指導者の魅力を伝えるコンテンツなども必要かもしれません。今後も継続して神奈川から、なでしこジャパンの中心選手を輩出できるように、複数の目で選手が育てられる良いと思う。 ・月経（ホルモン）との関連があるとされ、男子選手よりも女子選手に多いとされるACL（前十字靭帯損傷）などの医学的情報は、選手・コーチングスタッフらに共有されているか？ 「女子サッカーの普及・強化」と言う点において、単に「女性を増やす」という施策だけでなく、女性が長くサッカーの世界に継続けられるような環境づくりや工夫をどのようにしているのか知りたい。 ・普及促進活動と考え方は同じ。部会の取り組みに感謝する。 ・関わる人達が少ない。関わる人を増やすには、チームを増やしていくしかない。ジュニアユース・ユースチームを増やす施策を打ち出したい。 ・男女共通なトレセンなどは、女子部会ではなく技術部会が担当するなどすべき、部会のタスクが多すぎるように感じる。 ・「女子サッカーの普及・強化」については、23年度までのKGIとして、①女子選手登録者数を5、200人（全選手登録者の10％）にする。②女子公認指導者数を700人（全公認指導者の10％）にする。③女子審判員数を2、600人（全審判員の10％）にする。とされているが、23年度の登録者数は3,334人（全選手登録者の6.4％）に留まっている。また②女子公認指導者数は260人（全公認指導者の1.6％）である。さらに③女子審判員数は1,004人（全審判員の4.4％）であり、KGIとまだまだ大きな開きがある。KGIを設定したときは、このことから、女子サッカーの推進に向けて様々な取組はされているが、女子部会の課題というだけでなく、本協会として、重点化して取組む課題と捉え、関連部会が連携して推進していきたい。
			女性普及コーディネーターを新規に設置する。		女性普及コーディネーターを設置し、女子部会でサポートするとともにJFA・FAKJと連携を密にする。	・女性普及コーディネーターとしてJFAコーチの桑原さんを配置した。	
			WEリーグ、なでしこリーグ、地域クラブとの連携し、なでしこひろばを積極的に開催する。		WEリーグ、なでしこリーグ、地域クラブとの連携し、なでしこひろばを積極的に開催する。	・2023年10月7日にJFAファーストタッチを実施。かもめパークで約100人参加した。	
		女子サッカーの活動環境の改善	トレセン活動等でのグラウンド調整や情報の共有を図る。		トレセン活動等でのグラウンド調整や情報の共有を図る。	・かもめパークを曜日に分けて使用している。	
			小学校・中学校年代の活動の改善を図る。（例：中体連との連携、選抜活動大会の実施等）		小学校・中学校年代の活動の改善を図る。（例：中体連との連携、選抜活動大会の実施等）	・女子部会に4種の女子担当、中体連の女子担当が参加し、連携を強化している。U-15大会にU-12選手が前座で試合をする、中体連イベントに女子部会の指導者が参加するなど連携は深まっている。	
		女性の公認指導者の育成・拡充	女性インストラクターを積極的に登用する。		女性インストラクターを積極的に登用する。	・2023年度より3名の新規女性チューターを増員。	
			女子指導者対象の指導資格取得講習会（D・C級）を開催する。		女子指導者対象の指導資格取得講習会（D・C級）を開催する。	・2023年度より3名の新規女性チューターを増員、今年度中の1/21-22で女性限定のD級取得講習会を実施予定。	
			女性B級ライセンスの取得を推進する。		女性B級ライセンスの取得を推進する。	・女子トレセンにおいて、女性指導者の新規登用とレベルアップを図りB級へ推薦をした。	
		女性の審判員の育成・拡充	女子審判の育成・強化トレセンを実施する。		女子審判の育成・強化トレセンを実施する。	・女子審判員対象の育成トレセン（初心者対象実技講習会等）や強化トレセンを実施した。	
			女子対象の新規審判資格取得講習会を開催する。		女子対象の新規審判資格取得講習会を開催する。	・女子対象の新規4級審判資格取得講習会を実施した。また、女子大学生対象の3級審判員資格講習会も実施	
			大学女子選手の3級取得講習会を実施するとともに、その後のフォローアップを計画的に行う。		大学女子選手の3級取得講習会を実施するとともに、その後のフォローアップを計画的に行う。	・取得講習会は実施できたが、フォローアップまでには至らなかった。	
		トレセン活動の充実による選手育成	カテゴリー代表や国体(県代表選手)をトレセン活動の目標となるよう、選手・指導者を動機付けする。		カテゴリー代表や国体(県代表選手)をトレセン活動の目標となるよう、選手・指導者を動機付けする。	<ul style="list-style-type: none"> ・選手・指導者への動機付けは基本的に女子技術部会でやっている。国体強化部会で情報を共有したり、アドバイスをしたりしている。U16国体を頂点とする体制を再構築し、担当責任者を任命、U12年代との連携強化とスタッフ協力体制を整備中。 	
			U16国体、トレセンリーグに向けてチーム組織（強化部・指導スタッフ・活動運営）を構築するとともに運営体制を整備する。		U16国体、トレセンリーグに向けてチーム組織（強化部・指導スタッフ・活動運営）を構築するとともに運営体制を整備する。	同上	
		JFA施設整備助成金の活用による自治体と地域（市町村）協会と連携した施設整備の推進	市町村協会・自治体と緻密に情報共有する。		市町村協会・自治体と緻密に情報共有する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校跡地などグラウンドに転用できる土地があれば費用を捻出するというチームがある。（社会人） ・市町村連絡協議会や県を通して市町村スポーツ課等に広報をしている。川崎市・クラブチームから人工芝コート新設の情報が入っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・かもめパークは、素晴らしいフットボールセンターである。しかし、他県に比べると1面しかないのはサッカー人口から考えると不足である。この先第2フットボールセンターを考えるとしたら、埼玉県方式で県立高校の統廃合で空いた学校を安い地代で借り受けて人工芝化して運営したい。国スポ会議で、打倒埼玉県というならばそういう形式を追求したい。 ・自治体予算が縮小する中、ゴール寄贈事業は貴重な取組みだと感じる。かもめPのフットサル場は、企業の研修などで使ってもらうのはどうか。 ・施設の整備は、自治体との連携が欠かせない。
			2022年度の芝張替・照明増設等改修に向けたワーキンググループによる検討を進める。また、SDG'sの考え方を踏まえた芝の張替や照明器具の増設を考える。		SDG'sの考え方を踏まえた施設整備を考える。	・継続的に検討している。	
		かもめパークの施設設備の充実と活用推進	かもめパーク内の空き地の活用を推進する。		かもめパーク内の空き地の活用を推進する。	・厳密に言えば空き地はない。緑地は20%あるため有効利用・整備を検討したい。	

施策No.	施策の柱 (テーマ)	重点施策	2021年度	2022年度以降の取組の方向性	2023年度	2023年度	理事意見
			具体的な取組		具体的な取組	振り返り（成果と課題）	
7	施設整備の 推進		追加	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村のサッカー協会とも緊密な連携を図りながら自治体を支援し、各市町村の小中学校などへの照明設置や廃校になった施設などの積極的な活用を推進するなどして、サッカーができるグラウンド等を増やすとともに併せてグラウンドの人工芝化や天然芝化の取組みを推進すること。 	かもめパークの利活用を促進し、自主財源を確保する。	<ul style="list-style-type: none"> ・前年に引き続き最高売り上げになる予定だが、フットサル場の稼働は低下の一途となっている。フットサルの稼働率向上が大きな課題である。 	<p>い。自治体は予算とやる気がないので、やる気を起こさせる方法が必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校・中学の再編により空き状態になっている施設を使用するのに、総合型スポーツクラブを設立するののも一つの方法であり、多様目と連携を図るようにできないか？ ・かもめの空きスペース(芝)の使用に工夫をしたい。(ウォーキング教室、ドッグラン等) ・サッカー場、フットサル場ともにトイレの整備が必要か、また今後のことを考えれば日陰の確保をしたい。 ・フットボールセンターは、是非もう1か所は確保したい。県や市町村への積極的なアプローチが必要。 ・「施設整備の推進」については、23年度までのKGIとして具体的な数値目標は示されていないが、JFAも施設整備の助成事業を行うなど、施設整備の推進は、サッカーを楽しむ環境を整備する観点からは、重要な課題である。しかし、新規の施設整備には、莫大な費用がかかることから、学校のグラウンドの有効利用を推進する動きかけを強化したい。特に、今後、部活動の地域移行の流れもあり、学校の運動施設を県民の財産として有効活用する動きかけを推進したい。
		県立スポーツセンターの施設整備の支援と活用推進	2023年度以降の天然芝整備の推進を支援するとともに、利用促進を働きかける。		2023年度以降の球技場1及び陸上競技場の天然芝整備を継続的に要望する。	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度特段の動きはなかった。 	
		サッカーゴール寄贈事業を含め、地域（市町村）協会との連携・協力による施設設備の充実	サッカーゴール寄贈事業の継続と事業拡大を図る。		協会主催事業の利用拡大に向けて、予約方法の改善を要求する。	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度特段の動きはなかった。 	
8	社会貢献活動の 推進と青少年の健全育成	SDGsの考え方を踏まえながら、社会と地域への貢献活動を推進	かもめパークのごみの持ち帰り運動を推進する。 i P a d利用による会議資料のペーパーレス化を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・フェアプレー精神の更なる定着を図る取組みを推進すること。 ・フェアプレーの振興(前掲) ・障がい者サッカーの振興(前掲) ・感性豊かな若い世代の中高校生年代が、障がい者サッカーと交流できる機会を多く創出し、インクルーシブな意識が身に付けられる取組みを推進すること。 	かもめパークのごみの持ち帰り運動を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フェアプレーの推進は、時間のかかることかもしれないが指導者を育てて、選手や保護者にそのことを浸透させるしかない。有資格指導者の新規取得やリフレッシュ講習会でフェアプレー精神の醸成を継続したい。 ・障がい者サッカー連絡協議会を充実させ、すでに行っているインクルーシブフェスタをより多くの方に知ってもらい、みんなで参加するお祭り にしたい。 ・選手の育成は人間力の育成と同義と思う。よい選手を育成すれば自ずと社会に貢献できる青少年は増えていく。そのためには指導者の質の向上が大切であるため、指導者の育成と関連すると思う。 ・障がい者サッカーへの関心度を上げるためにも、接する機会をどれだけ増やせるか。方策として、イベント増、特別支援学校などの当事者へのアプローチ、ボランティアなど様々な角度からの接触機会増。 ・審判を囲むようなこともなくなり、選手からの異議は過去に比してかなり減少しているように感じる。その反面、ベンチスタッフからの異議などはむしろ増えているように感じる。それを見ている選手は同じようになるのではない ・「社会貢献活動の推進と青少年の健全育成」については、23年度までのKGIとして、具体的な数値目標等は示していないが、本協会が、サッカーを通じて、社会貢献したり、青少年の健全育成を目指すことは、大切な観点だと思う。特に、フェアプレーの精神やインクルーシブな意識の涵養は、サッカーの中だけでなく、日常生活にも通用する大切な考え方であり、特に育成年代の子どもたちには重視して涵養していきたい。
		社会貢献活動への積極的な参加を啓発するなどして青少年の健全育成を推進	個人やチームで参加できる社会貢献プログラムを紹介するなどして、社会貢献活動への参加を促す。		個人やチームで参加できる社会貢献プログラムを紹介するなどして、社会貢献活動への参加を促す。	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ協会等が実施する障がい者スポーツに関する行事について、各加盟校への配信を行い、参加をうながした。 ・各チームで取り組んでいるところもある。(社会人) 	
		リスペクト、フェアプレーの定着に向けた啓発活動の充実	技術部との連携でサイレントゲーム等の導入を行う。		技術部との連携でサイレントゲーム等の導入を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者講習会での実施に向けて、JFAセーフガーディングワークショップのチューター向け研修会は昨年度実施済で準備は順調である。 	
			各部会での啓発の講演等を行う。		各部会での啓発の講演等を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者講習会での実施に向けて、JFAセーフガーディングワークショップのチューター向け研修会は昨年度実施済で準備は順調である。 ・顧問総会等を利用した暴力根絶に関する周知を行っている。(2種高校) ・各部会の大会抽選会などでフェアプレーについて触れるように努めた。 	
		グラスルーツのスポーツの普及や障がい者のスポーツの活動環境づくりの支援	障がい者スポーツイベントを主催する。 障がい者スポーツ活動への協力や後援を推進する。 追加		障がい者スポーツイベントを主催する。(再掲) 障がい者スポーツ活動への協力や後援を推進する。 障がい者サッカー団体を取りまとめる組織づくりを推進する。(再掲)	<ul style="list-style-type: none"> ・J、WE、なでしこリーグチーム等と連携したJFAインクルーシブサッカーフェスタを主催実施した。 ・障害者サッカー6事業の後援を行い、イベント情報等を部会長・市町村協議会等に情報発信した。また、入団案内等にチラシを県協会に配架した。 ・県協会、障がい者サッカー団体の関係者で構成される準備委員会を発足させ、検討をしている。 ・県協会内に障がい者サッカー連絡協議会を設立し、連絡協議する場とした。また、女子部会に障がい者サッカー担当を設置した。 	
9	トップリーグとの 連携・強化	J・WE・なでしこ・Fリーグ等との連携・協力体制の強化	F Aコーチを介した技術分野での連携を強化する。 大会運営を通じた協力体制を強化する。	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでのトップリーグ等との連携や協力してきた取組み等を整理して見える化し、その上で、相互に今後の連携・協力体制の更なる充実を 	F Aコーチを介した技術分野での連携を強化する。 大会運営を通じた協力体制を強化する。	<ul style="list-style-type: none"> ・FAコーチは、女子部会の会議に必ず参加している。女子の国体強化会議にも同様である。 ・FAコーチは、女子の大会運営も見学している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・JリーグやWEリーグ戦を観る文化の醸成のため「J&WE リークDAY」を作り、3種4種選手を競技場に公的資金を投入して優先招待を実施するなど本気で取り組む必要がある。 ・J,WE,なでしこクラブが数多くあることは、神奈川県の大切な資源なので、より一体感のある活動ができるとよいと思います。 ・FAコーチの動き過ぎはないか気になる。J等とのどのような連携が必要なのか私自身もよくわからないが、必須なことと思う。 ・「見る」、「支える」観点をメインでまだまだ連携ができていない。うまく連携が取れていけばファミリーの拡大にも繋がる。 ・特にアジア圏の日本サッカーへの関心は高い。(Jリーグが放送など) サッカーを通じて県などの行政とも協力インバウンドにもつながる可能性は高い。 ・技術部会では連携・協力は充分にできていると思うが「組る」「支える」分野では一層の
		Jリーグ等との定期的な情報交換の機会の創出	Jリーグ関係者の理事会へのオブザーバー参加を働きかける。 業務執行理事によるチーム訪問等の機会を設ける。		Jリーグ関係者の理事会へのオブザーバー参加を働きかける。 業務執行理事によるチーム訪問等の機会を設ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・特段の動きはなかった。 	
						<ul style="list-style-type: none"> ・大会視察にとどまった。。 	
		Jリーグ等との協働事業の企画	各種事業への相互協力機会を拡大する。		各種事業への相互協力機会を拡大する。	<ul style="list-style-type: none"> ・J、WE、なでしこリーグチーム等と連携したJFAインクルーシブサッカーフェスタを主催実施した。 ・技術部を中心に多くの事業で協力いただいている。 	

施策No.	施策の柱 (テーマ)	重点施策	2021年度	2022年度以降の取組の方向性	2023年度	2023年度	理事意見
			具体的な取組		具体的な取組	振り返り（成果と課題）	
		Jリーグ等と連携した「こころのプロジェクト」の推進	Jリーグ等と連携したプロジェクトを企画し、実施する。	目指すこと。	Jリーグ等と連携したプロジェクトを企画し、実施する。	・特段の動きはなかった。	こころのプロジェクト「こころ」の活動では、指導者の連携・協力に思う。 ・「トップリーグとの連携・強化」については、23年度までのKGIは示していないが、Jクラブ等が多いことは本県のアドバンテージであり、是非、トップリーグとの連携・強化は、引き続き推進していきたい。但し、現状では、指導者育成やトレセン活動等に指導者を派遣してもらう等の取組みはあるが、トップリーグを見るスポーツを推進する観点から、良いゲームを生で観戦し、サッカーの魅力に触れてもらい、サッカーファミリーの拡充につなげる等の連携・協力も考えたい。 全体的に動きが少ない印象です。トップリーグとの連携・強化の必要性自体はどのような程度でしょうか。
10	サッカーを通じた国際交流の推進	国際大会、国内大会等のトップレベルの大会の招致活動の推進	JFAや競技場との情報共有を図り、連携協力する体制を構築する。	・国際大会招致や海外キャンプ実施にむけ、スポンサーの獲得をはじめとした予算化を計画的に進めていくこと。 ・国際大会等の運営スタッフとして、積極的に高校生・大学生を登用すること。	JFAや競技場との情報共有を図り、連携協力する体制を構築する。	・サッカー専用競技場が優先的になり、主要な大会実施は叶わなかった。	・若い才能のある選手に世界基準を実体験させるには、来年度始めるスペイン遠征を継続させたい。ただし、クラウドFは毎年やるには不向きなのでスポンサー獲得やある程度の補助金投入を継続させたい。 ・若い世代での海外経験は貴重です。計画性を持ち、実行していくことが大切だと思います。 ・これからますます、外国人の労働力が必要になる社会において、地域にいる外国人労働者らと交流する機会を積極的に作っていくことができるのではないだろうか。 ・若い世代の国際交流は意義深い、三県省道は不安定な事業であるため、不調に終わったときの保険があった方がよい。 ・国際交流。海外遠征するための資金調達をスムーズにすべく、協賛社についてさらに増やす努力をしたい。 ・チームレベルでは行われているが、トレセンを中心とした県協会としての企画数増加を図りたいところ。 ・「サッカーを通じた国際交流の推進」については、特にKGIは示していないが、特に若い世代には、サッカーを共通言語として、海外の多くの人たちと交流する機会を設定し、国際社会で活躍できる人材の育成にも推進したい。
		海外キャンプの実施等によるチーム（選手・指導者等）の国際交流の推進	県内でキャンプ等を実施するチームとの国際交流の機会を創出する。		県内でキャンプ等を実施するチームとの国際交流の機会を創出する。	・特段の動きはなかった。	
		県の特徴を生かした国際交流大会等の開催を推進	長期的視野に立って、国際交流を推進できる大会の開催や後援等の実現に向けて、具体的に検討する。		長期的視野に立って、国際交流を推進できる大会の開催や後援等の実現に向けて、具体的に検討する。	・毎年3月にU13セントラルに韓国遠征を体験させている。2024年度に新たにU14本県登録選手の希望者を集めて8月にスペイン遠征をCFを活用して実施予定。 ・2024年度は三県省道国際交流が再開することになった。	
11	組織基盤の確立	事務局及びかもめパークの運営体制の充実による会員サービスの向上と収益の向上	事務局及びかもめパークの業務の見直しを図り、職員の適正配置と連携した効率的、合理的な運営を推進する。 会員並びに利用者ファーストに立ったサービスの充実により、収益の増大を目指す。	・フットボールセンターの有効活用による自主財源確保を検討すること。 ・本協会の円滑な運営のため、必要な諸規程の見直しや整備を行うこと。 ・安定した協会運営を行うため、将来を見越した人事・経営計画を策定すること。	事務局及びかもめパークの業務の見直しを図り、職員の適正配置と連携した効率的、合理的な運営を推進するため、FAKJの経営計画を踏まえて、職員の人事・採用計画を策定する。 会員並びに利用者ファーストに立ったサービスの充実により、収益の増大を目指す。	・2023年度、事務局に新人を迎えることができた。また、かもめにも新人の常勤職員を迎えることができたが、もう1名が決まらず年度末を迎えているが、2024年度からの常勤者1名補充の目はたった。	・現組織の硬直化を防ぐために定款細則に役員の役職上の上限年数とトータル上限年数も明記することには、賛成である。 ・法令遵守が求められる中、よりクリーンで、発展性のある組織づくりが重要だと思います。 ・安定した協会運営のため、事務局の充実（人員確保）が必要。日本のスポーツ界は他に職業を持つ方々に頼らざるを得ない現状がある。今後の運営のしかたについて議論が必要である。 ・事務局の更なる増員が必要か。Jリーグクラブの社員並びに一般企業の会計担当者等、常にアンテナを張り年齢の差がつきすぎないようにリクルートしたい。 ・拙速にならぬよう着実に組織基盤をかためて行きたい。 ・「組織基盤の確立」については、組織的なマーケティングによる協賛企業等の増大（自主財源の確保）を図るため、23年度までのKGIとして、「協賛企業数：10社、協賛金(相当)合計1,700万円を維持する。」としたが、現時点では、協賛企業数：6社、協賛金(相当)合計1,360万円となっている。引き続き自主財源を確保するため、他県の取組み等も参考にしながら、組織的なマーケティングを推進したい。また、組織運営の充実として、「女性の理事を30%、外部理事を20%にする。」というKGIを設定したが、現時点では、外部理事が50%であるが、女性理事が25%であり、KGIを満たすまでには至らなかった。引き続き多様な人材を登用して、多角的な視点での協会運営を行うための組織の改善・充実を目指し、次の改選期には、より積極的に女性理事や外部理事の登用を推進したい。 ・かもめパーク単独の情報発信のあり方についてどのようなスタンスでしょうか。1施設の集客をする場合、SNS等の活用も一案かと思います。
		追加			かもめパークの利活用を促進し、自主財源を確保する。（再掲）	・前年に引き続き最高売り上げになる予定だが、フットサル場の稼働は低下の一途となっている。フットサルの稼働率向上が大きな課題である。3月よりフットサル場利用者へのボール・ピブスの貸し出しを始める予定	
		組織的なマーケティングによる協賛企業等の増大（自主財源の確保）	マーケティング推進部を増員し、協賛企業等の増大に向けた取組を推進する。 コロナ禍でも伸びている企業を洗い出し、協賛を得られるようアプローチを工夫する。		コロナ禍でも伸びている企業を洗い出し、マーケティング推進部が中心となり、協賛が得られるよう積極的にアプローチし、協賛企業等を拡大する。	・特段の動きはなかった。	
		ガバナンス（意思決定・運営・会計原則・不祥事）、コンプライアンス（法令遵守）の一層の推進	スポーツ団体ガバナンスコードに沿った評価改善により、適切な協会運営を推進する。 ガバナンスやコンプライアンスに係る研修を企画し、適切な協会運営の在り方を追求する。		スポーツ団体ガバナンスコードを踏まえた業務・事業評価をし、改善を図りながら、適切な協会運営を行う。 協会運営において、中心的な役割を担う役員や部会長等を対象としたガバナンスやコンプライアンスに係る研修を行い、必要な諸規程の改訂を行うなど、適切な協会運営の在り方を具体化する。	・昨年に引き続き、他県FAが会計処理について本協会に来局して意見交換した。業務・事業評価は実施に至らなかった。 ・JFAのコンプライアンス研修が中断したことで、研修は行えなかった。 ・役員規約を新規策定した。 ・2024年度からの役員賠償保険への加入を決定した。	
		JFA一括補助金の適切でより有効な活用の推進	補助金の目的等を周知するとともに、各部会等との予算折衝や予算化手順等を明確化し、各部会等が目的に沿って適切で効果的な予算編成が行えるよう支援する。		補助金の目的等を周知するとともに、各部会等との予算折衝や予算化手順等を明確化し、各部会等が目的に沿って適切で効果的な予算編成が行えるようにする。	・部会長会議、部会ヒアリングを通してJFA一括補助金について周知し、適切で効果的な予算編成が行われている。	
		役員等への女性及び外部理事の登用による組織運営の充実	役員改選期での積極的選定・定款の改訂・役員改選期において、組織運営の充実に関わる有望な女性役員等の登用を積極的に推進する。また、それに併せて、選定方法や定款の改訂等も行う。		外部理事や女性理事を積極的に登用するとともに、組織の硬直化を避け組織運営の充実を図るため、FAKJの経営計画と役員の人事計画を策定する。また、それに伴う役員の選定方法や定款の改訂等を行う。	・6月の総会において、女性の監事を選定した。また、第1回理事会で一般社団後初の外部理事会長と女性常務理事を選任した。 ・組織の硬直化を防ぐため、定款細則に役員の役職上限年数を明記した。	